

A 小学校の取り組み

～多忙な中でも、効果的に「つなぐ」「つながる」支援～

1 ここがポイント！

- 個別の教育支援計画等の活用の仕方
- 多忙な日常の中で、短時間で効果的なケース会議の工夫、理解啓発のための資料活用の工夫
- 担当者の大切にしている視点



2 年間スケジュール（一部です）

月	特別支援委員会
4月	○交流学級担任との打合せ ○個別の教育支援計画・個別の指導計画の引き継ぎ
5月	○第1回特別支援教育全体会 ○対象児童の把握 ○生徒指導・特別支援協議会
6月	○巡回相談 ○第2回特別支援教育全体会（ケース会議） ○生徒指導・特別支援協議会
7月	○生徒指導・特別支援協議会 ○個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成
9月	○生徒指導・特別支援協議会
10月	○生徒指導・特別支援協議会
11月	○第3回特別支援教育全体会
12月	○教育相談
2月	○第4回特別支援教育全体会 ○個別の教育支援計画・個別の指導計画の評価
3月	○特別支援委員会 年間の反省と次年度計画の作成

3 特に工夫していた点

【個別の教育支援計画

・個別の指導計画の活用】

ポイント① 会議中に個別のファイルの回し読みの時間を設け、情報活用！



A小学校では、4月始めの第1回特別支援教育全体会の中で、個別の教育支援計画等の個人のファイルを下学年、上学年の関係するグループで読む時間を取っています。会議の短い時間内で、「読んで理解」という場を意識的に行うことで、多忙な中でも素早く意識して情報共有し、すぐに指導や支援をスタートすることができる活用方法です。

ポイント② 通常の学級担任でも作成、活用できる工夫！



支援が必要な児童に対して個別の教育支援計画を作成し、活用を図っています。通常の学級の担任でも作成方法が分かりやすいように作成例を示しています（下の写真）。



先生方が実施しやすい環境を一工夫！

【情報収集から支援までをつなぐ】

ポイント③ 各種会議を上手に活用し、「横」の連携を図り、効率的に情報収集を進めています！



月1回行っている生徒指導・特別支援協議会で、生徒指導の視点、特別支援教育の視点と線引きせず、学級において何らかの支援が必要な児童の情報を共有する場を設けていました。

そこから、さらに対応が必要な児童には、特別支援教育全体会（ケース会議）、個別の教育支援計画等の作成・活用、SSWやSC等との連携を進めていました。

忙しいからこそ、一つの会議から、次につながる「しかけ」がありました。

【短時間で、効果的なケース会議の工夫】



ポイント④ 30分で、3人。じっくりやる時間はないです。だからこそその「しかけ」があります！

A小学校では、30分程度で3つのグループ、3人を同時並行してケース会議を行います。グループ編成は、特別支援教育コーディネーターが考え、「担任、前担任、近くの学年」などを仕組み、より明日からの支援体制を効果的に、最大限に発揮できるようにしています。

担任は悩んでいます。そこを一緒に考える。子どもだけでなく、担任も支援できる、みんなが元気になる会議はいいですね。

【学校の支援体制の工夫】



ポイント⑤ 全てを一人ではできません。役割を分担し、効果的な支援体制をみんなで作っています！

特別支援教育コーディネーターが全てを行うことは不可能です。次のような役割分担をして取り組んだそうです。

- 校長…支援体制について助言をしました。また、内容によっては、一緒に支援策を考えたり、支援に関わったり、保護者との話し合いに参加したりしました。
- 教頭…支援体制について助言をしました。また、医療機関、教育委員会等との連携調整などを担当しました。
- 教務…支援員のコーディネートを担当しました。

あくまでも一部です。他、様々な先生方を巻き込み、「つなぎ」、「つながり」、学校で効果的に、協働・連携ができるようにしていました。



ポイント⑥ 誰に相談すればいいか、明確にする工夫がありました。

PTA 総会で、「教育相談の案内」の時間を取り、教育相談の担当者、相談できる内容、相談の窓口について伝えました。

困った時に、「誰に？」が分かれば、早期の対応につながりますよね。

【忙しい中での理解啓発のために】

通級による指導の理解を進めるために、「コーディネートハンドブック」41ページの第I章-2(5)⑦『小・中学校における通級による指導の実際』をカラー印刷し、第1回特別支援教育全体会の時に説明しました。



一から資料を探したり、作ったりするよりは、1枚で、さっと説明できる資料として活用していました。

4 特別支援教育コーディネーターとして、大切にしている3つのこと

1 「子どもの困っている気持ちに、保護者の思いに寄り添う」

学校が対応を進める前に、まずは、その子の特性を十分に理解し、保護者のつらさに寄り添いながら無理なく、本人や保護者が納得できるように進めています。

2 「情報の収集・共有」

保護者やSSW、SC、医療機関、支援チームからその子に関わる情報を収集し、支援チームや担任と共有する。「みんなが同じ支援をしている」ことを大切にしています。

3 「つなぐ」

その子にとって一番必要な支援を選択し、相談室、SSW、SC、医療機関等とつなぐようにしました。「丁寧につないでいく」ことを大切に考えていました。

